

国語

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

一、次の①～⑩の――線について、漢字は読み方をひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 水面に月が映し出される。
- ② はさみで布を裁つ。
- ③ 新しく会社を興す。
- ④ 両者には類似点がある。
- ⑤ 古い家屋が立ち並ぶ。
- ⑥ 友人の考えをソynchョウする。
- ⑦ ハリに糸を通す。
- ⑧ 開会をセンゲンする。
- ⑨ 無理をショウチで頼む。
- ⑩ 自動車のモケイを作る。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

① 違う意見の人と意見の調整をしたり、相手に批判的なことを言う場合、お互いが「そんなこと当たり前だ」と思い込んでいるならば、話は進みません。お互いが自分の意見をいったんは相対化してみる必要があるでしょう。お互いに、自分の意見に対してちよつと距離を置いて再考できるような勇氣と知性と余裕があれば、話し合いはさらによりよいものになっていきますし、争いも深刻化しないで済みます。

② その意味で、ぜひ使ってみたい言葉があります。それは、「**確かに**」と「なるほど」^①です。「確かに」という表現は、もとの自分の意見のままではなくて、話をする^②ことで、新しい意見も(少なくとも一部)認めることを表します。

確かに、そういう側面がある。少し考え直そう。

③ というように全面的に新しい考えを受け入れる用法もあるでしょうし、確かに、そういう側面もあるが、……。

④ というように、考えをいったんは受け入れた上で、しかしもとの意見は変わらないという用法もあります。もとの意見が変わらない場合でも、いったんは相手の意見を受け入れて別の視点からも考えてみた^③ことを表すので、意見のふくらみが違います。

⑤ また、「なるほど」は、新しい情報について、自分の知識の中に位置つけた^④ということを表します。**a**、この言葉は、相手の話を理解した^⑤ことを表します。

⑥ 違う意見の人たちの話し合いでも、なるほど、そう言われればそんな気もする。

なるほど、自分とは違う意見だが、あなたの言うことはそれはそれとしてよくわかる。という言葉がお互いにどこかで使えれば、意見の歩み寄りができるのではないでしょうか。

⑦ 話し合いにおいては、相手の意見と自分の意見が最終的に一致しないこともよくあります。その場合、「あなたはおかしい」か「私がおかしい」かのいずれかだ、といった対立関係になることもありますが、それ以前に必要なことは、

⑧ ということですが。時々、相手の主張を誤解したままで批判する人がいますが、その点を防ぐためには、まずは「なるほど、あなたはそう考えるのか」といった段階が必要でしょう。**b**、「確かに」^{※1}というように、いったんは自分の立脚点を離れてみることもいいことです。「あなたの言うことは、それはそれとしてよくわかる」というようにいったんは話を受け止めるわけです。そして、その上で「あなたはこう考えるが、私はこう考える」というように意見の違いについて考えていくといいでしょう。

⑨ 違う意見の人と議論をするとき、やみくもに自分の意見を主張するだけでなく、時には自分の主張を相対化^⑥してみてもいいです。相手の意見を聞いて、その中にお互いが納得できる部分^⑦がどこかを探してみる、または、そのもとな^⑧っている考え方の中に共通点はないかどうかを考えてみる。こうした態度は話を進めるためにとても重要なことです。

⑩ そうしたいわばポイント切り替えの言葉として、「確かに」「なるほど」のように、もともとの自分の考えとは違う視点をとってみることを表す表現が使えるのです。

⑪ もう一つ、自分を相対化^⑨するということは、人間関係にも関連します。自分自身を客観的に見る、ということとは、「他人」と「私」のとらえ方にも関わるからです。

9 c クラブ活動をしているときなど、自分が部長であったり、自分が技術的に上手であると思います。すると、ほかの人がちよつと不熱心であったり、なかなか練習したりしないと、「あいつはだめだ」というように思いがちです。

10 もちろん、「熱心である」ことはいいいこと^④です。だからこそ、「私は正しい」と思ってしまうます。まさにその通りで「私が正しい」のですが、ただ、そのために、ほかの人たちとの間に溝^{なま}ができてしまうと結果としてクラブがまとまらないことになります。自分が正しいために、相手も私の意見を聞くはずだ、と思ってしまうわけですが、そこに落とし穴があるのです。価値観や事情は人それぞれによって違うこともあるからです。

11 他人に対して、最初から「お前はだめだ」という態度で臨むと、たとえ相手もそのことがわかっていても、心が通じ合わないものです。※2 「相手はやる気がない」「相手はどうせわかってくれないだろう」のように、お互いにレッテルを貼ると、心と心のつながり^{※2}はできないのです。

12 そういう場合には、「私も向上したい」「相手も向上したい」ということをまずは認める必要があります。他人には他人なりの限界があるわけですから、時にはそれも受け入れるのです。そして、「私だけがエライ」という思いになっていないかを反省してみることが必要です。「私だけがエライ」と考えてしまうと、「エライくない」ほかの人の心を直接コントロールしようと考えがちです。d、そうすることで、かえって、思いは空回りし、心はすれ違うものです。

13 自分の考え方を相対化するということには、相手をまずはそのまま受け入れようと努力してみるということも含まれます。「私だけが正しくて、ほかのみんなはだめだ」というように判定するのではなく、まずはいろんな人がいるということを受け入れ、その中で、自分の考えも理解してもらえるように努力することが理想的でしょう。

(森山卓郎『コミュニケーションの日本語』より)

※1 立脚点：事を行うにあたって、よりどころとする立場。

※2 レッテルを貼る：一方的にある評価・判断を下す。

問一 線①「確かに」という語にはどのような使い方があると筆者は述べていますか。文章中よりふさわしい箇所を二つ抜き出しなさい。

問二 a d に入る言葉として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし イ 例えば ウ なぜなら エ つまり オ また

問三 5段落の に入る言葉として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア あなたの主張は間違っている イ あなたの主張が理解できない
ウ あなたの主張がわかる エ あなたの主張は正しい

問四 線②「自分の主張を相対化して試してみる」とはどのように考えてみることでか。1～4段落の中から解答欄に合うように二十文字以内で抜き出しなさい。

問五 線③「こうした態度」とは、どのような態度ですか。文中の言葉を用いて、解答欄に合うように具体的に四十字程度で答えなさい。

問六 線④「ほかの人たちとの間に溝ができてしまう」とありますが、その理由を文章中の言葉を用いて説明しなさい。

問七 線⑤「最初から『お前はだめだ』という態度で臨む」とありますが、その状態を別の言葉で表すと次のようになります。空欄に入る二字を漢字で答えなさい。

--- 観を持つ

問八 右の文章を大きく二つに分けるとすると、後半はどこからになりますか。①⑬の段落番号で答えなさい。

問九 左の会話文は右の文章を読んだ中学生4人の生徒が「話し合い」について語り合っているものです。筆者の考えを正しく理解している中学生の名前を答えなさい。

かのん：私は文章を読んでみて、自分と違う意見の人と話し合いをする時は、自分の考えとは違う視点をとってみると、話がスムーズに進むということがわかったわ。

ふうが：ぼくは、この文章を読んで話し合いのときには相手の考え方の間違いをみつけて、自分の主張の正しさを理由も含めてしっかりと伝えることが大切だと思ったよ。

れんと：ぼくは、この文章から違う意見の人と話すのってとても疲れることをしなくちゃならないってことがわかったよ。だから無理に合わせる必要もないんだよね。

かなで：私はこれから話し合いのときは、筆者が言うように、常に相手の立場にたって意見を合わせていこうと思うわ。その方が話はうまくまとまると思うの。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 満場一致で決まるはずだった。自信はあった。発表したときのみんなの反応はぼつちりだったし、担任の本宮先生も、いいぞ、というふうに大きくうなずいていたし、書記をつとめる川原くんは、きみの発表した案をひときわ大きく黒板に書いてくれた。

〈信号は 渡る前にも 左右〉

交通安全の標語だった。来週から始まる秋の全国交通安全週間に向けて、全校でクラスごとに標語とポスターをつくる。五年三組の標語は、きみの考えた案で決まり——のはずだった。

ライバルはいない。他の案はどれもつまらない。〈雨の日は 傘を差すから 危ないよ〉だの〈気をつけよう ガードレールのない道路〉だの〈行き帰り まっすぐ前見て 歩こうよ〉だの……。

標語の上手い下手なんて、ほんとうはきみにもよくわからない。みんなにもわからない。だから、おそろく、きみが勝つ。和泉文彦

——「ブンちゃん」が考えた標語だからというだけで、みんなの頭には、それが一番なんだ、というのが刻み込まれる。五年三組はそういうクラスで、きみは、そんな五年三組の、間違いなくヒーローだった。

ブンちゃん——次はきみの話だ。

「他に意見ありませんか？」

司会の細田くんが、教卓から教室を見まわして言った。

「決まりだろ、もう」

③ すかさず三好くんが言った。「ブンちゃんのでいいじゃん、サイコーだもん」とつづけ、きみをちらりと見て、へへっと笑う。

④ 「だめだよ」きみは怒った顔で言った。「ちゃんと投票して、多数決で決めようぜ」

はつきりと「勝ち」がわかったほうが気分がいい。負けるはずがない。勉強でもスポーツでも、五年三組の男子できみにかなう子は誰もいない。

「じゃあ、投票にするっ。」

細田君は、自信なさげにきみを見て言った。学級委員のくせに、困ったときにはいつもきみを見る。一学期の学級委員はきみだった。「委員を務めるのは一年に一度だけ」という決まりさえなかったら、二学期もきみが委員に選ばれていたはずだった。

「さんせいー。」

④ きみが手を挙げて応えようと、細田くんはほっとした顔になり、ようやく学級委員の威厳を取り戻して「じゃあ、投票にします」と言った。そこまでは筋書きどおりだった。

でも、黒板に向いた細田くんの視線を引き戻すように、教室の後ろから声が聞こえた。「意見、言っているいいですか？」

耳慣れない男子の声だった。あいつだ、とすぐにわかった。二学期から入ってきた転校生——五年三組の一員になってまだ十日足らずの、中西くんだ。

⑤ 予想外のことに細田くんは言葉に詰まり、救いを求めるようにきみを見た。出端をくじかれたきみはムツとして、でもそれを顔には出さずに、いーんじやない？と目で応えた。その視線を、中西くんに向けて滑らせる。おとなしい奴だと思っていた。前の学校は、市役所の近くの城山小学校だった。二丁目に建ったばかりのマンションに引越してきた。知っているのはそれだけだ。

中西くんは席に着いたまま、黒板を指差して「和泉くんの提案した標語、いいけど、ちょっと間違っていると思います」と言った。「直したほうが、ずっとよくなるから」

⑥ 教室は一瞬静まり返った。男子の何人かがきみを振り向き、女子の何人かは怪訝そうに顔を見合わせた。

中西くんは落ち着いた口調で、きみの標語の間違いを説明した。このままでは意味が通らない、渡るのは横断歩道や交差点なんだから、「信号を渡る」という言い方はおかしい、「渡る前」と言うのなら、「信号」ではなくて「横断歩道」や「交差点」に替えたほうがいい……。

教室がざわついた。男子は困惑顔できみと中西くんを交互に見ただけだったが、女子は小声でしゃべりながら、そうだよね、とうなずいている子が多かった。きみはあわてて本宮先生の顔を盗み見た。先生は腕組みをして、ふむふむ、と中西くんの意見に納得している様子だった。

「だめだよ、変だよ、それ」

きみは声を張り上げる。「絶対だめだよ、そんなの、そっちのほうがおかしいって」と一息につづけ、そこから先はとっさに考えたことを口にした。

「『交差点』なんて言っても、一年生や二年生だと意味わかんないよ。難しい言葉つかってカッコつけても、意味がわかんなかったら標語にならないから、だからオレ、わざと『信号』にしたんだよ」

中西くんをにらみつけた。でも、中西くんはきみには目を向けず、細田くんにもつといい直し方があります」と言った。

冷静な中西くんの口調や表情に吸い寄せられたみたいに、細田くんは「発表してください」と応え、川原くんもチョークを持って黒板に向かった。

〈信号は 青になっても 右左〉

黒板の字は、途中から——「青になっても」の一言に、川原くんが、あ、そっか、とうなずいたのを境に大きくなった。

教室のざわめきも、どっちつかずで揺れ動いていたのが、しだいに一つの声の束にまとまっていた。うなずくしぐさがあちこちで交わされる。三好くんが、ブンちゃんどうする？と心配そうにこっちを見ていた。それがうっとうしくて、よけい悔しくて、きみはそっぽを向いて椅子に座り直し、窓の外をみつめた。

「じゃあ……いまの中西くんの提案も入れて、どれがいいか……投票に、します」

細田くんが気まずそうに言った。きみは窓の外を見つめたまま、空に浮かぶ雲の輪郭を目でなぞる。勝てない。わかっていた。

五年三組、男女合わせて三十七人のうち、中西くん本人を含む二十三人が〈青になっても〉に投票した。きみの〈渡る前にも〉に手を挙げたのは十人——いつも「ブンちゃん、ブンちゃん」とまとわりついてくる連中ばかりだった。

きみは、中西くんの標語に手を挙げた。他の誰にも負けないぐらい右手をピンと伸ばして、高く掲げた。でも、中西くんは、「では、五年三組の標語は、中西くんが提案した……」と細田くんが言いかけるのを制して、最初と変わらない落ち着きはらった態度で言った。

「和泉くんとぼくの合作です」

⑩ ゴム印で軽く捺されただけだった「負け」が、その瞬間、焼きゴテで強く胸に押しつけられたような気がした。

（重松清『きみの友だち』より）

※焼きゴテ……焼き印をつける際や金属の接着や衣類のしわ伸ばし、折り目付けなどに用いられる道具。

問一 ――線①「満場一致で決まるはずだった」とありますが、何がどのように満場一致で決まるはずだったのですか。文中の言葉を用いてわかりやすく書きなさい。

問二 ――線②「おそらく、きみが勝つ」とありますが、その理由を文中の言葉を用いて答えなさい。

問三 ――線③『だめだよ』きみは怒った顔で言った」とありますが、「だめだよ」と言った理由を答えなさい。

問四 ――線④「筋書きどおりだった」とありますが、ブンちゃんが考えていた「筋書き」とはどのようなものですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 投票による多数決ではっきり決めようと提案し、クラス投票で自分の案に決まるという流れ。
イ 自分以外の者から意見が出てクラスがもめることを想定し、多数決で決めるという流れ。
ウ いつも自分の発言したことに決まるので、今回も投票なしで自分の案に決まるという流れ。
エ 三好さんにブンちゃんの標語がいいと言ってもらい、皆に自分の案がよいと思わせるという流れ。

問五 ――線⑤「出端をくじかれた」、⑦「怪訝そうに」とありますが、それぞれの意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

⑤ 出端をくじかれた

⑦ 怪訝そうに

ア プライドを傷つけられた
イ 自分の主張を否定された
ウ 強引に自分勝手な意見を通された
エ 始めようとすることを邪魔された

ア 不思議そうに
イ 自信なさそうに
ウ 不愉快そうに
エ 心配そうに

問六 ――線⑥「教室は一瞬静まり返った」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア ブンちゃんの標語が間違っているはずがないと思い、中西君の見当違いな発言にあきれかえったから。
イ 転校してきてまだ十日足らずの中西君がブンちゃんの標語に対して意見をし、予想外のことになったから。
ウ これまでずっとクラスで議論してきて、すでに意見を出し切っていて、誰も良い案が思いつかなかったから。
エ 中西君の発言がクラスのヒーローであるブンちゃんを怒らせたと思い、怖くて発言ができなくなったから。

問七 ――線⑧「それ」とは具体的に何を指していますか。文章中から抜き出さない。

問八 ――線⑨「一つの声の束にまとまっていった」とありますが、どのような声にまとまっていったと考えられますか。わかりやすく答えなさい。

問九 ――線⑩「ゴム印で軽く捺されただけだった『負け』が、その瞬間、焼きゴテで強く胸に押しつけられたような気がした」とありますが、この時の「きみ」の心情をわかりやすく説明しなさい。